

平成29年度 学力向上検証委員会のまとめ

1 目的

とちぎ学力向上推進事業（とちぎっ子学力アッププロジェクト）を検証し、県教育委員会が実施する学力向上対策の改善に資する。

2 期日

- ・第1回 平成29年9月6日（水）
- ・第2回 平成29年12月6日（水）、平成29年12月11日（月）
- ・第3回 平成30年2月9日（金）

3 会場

県庁舎北別館401会議室、塩谷町立玉生小学校、上三川町立明治中学校

4 学力向上検証委員

12名（大学教授2名、県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高等学校長会代表、県小学校教育研究会代表、県中学校教育研究会代表、市教育長部会代表、町教育長部会代表、県PTA連合会代表、総合教育センター所長、教育事務所長会代表）

5 主な意見

(1) とちぎっ子学力向上応援団派遣事業について

- 「応援団」という言葉通り、先生方のやる気を向上させ、授業改善の意欲を高めていることについては、大きな成果である。
- 2年間継続して同一の派遣校に支援を行う事業だからこそ、1年目の訪問で把握した学校の実情を踏まえ、年度当初から踏み込んだ支援となることを期待したい。
- 派遣校以外の学校に対する支援として、学校の優れた取組や調査結果の分析ソフトなど、有益な情報を提供していくことが大切である。

(2) 学力向上推進リーダー配置事業について

- 学力向上推進リーダーによる日常的な支援が、先生方の日々の授業改善につながっている。
- 優れた授業実践については、映像資料の作成を通して普及していくことが考えられ、今後、検討していく必要がある。

(3) とちぎっ子学習状況調査について

- 全国調査と同日に実施することについては、各学校において定着してきており、4月の調査を要とした検証改善サイクルが構築されてきている。他の時期の実施にもメリットはあるが、現行でよいのではないかと考える。
- 中学校第1学年の調査については、引き続き検討をお願いしたい。
- 問題検討委員会への教員の参加については、教員の負担や管理の面等を考慮し、検討をお願いしたい。
- 自校採点については、教員による課題の把握に基づき、早い段階から課題の解決に向けて取り組むことができるという利点がある。その一方で、教員の負担等が大きいことを考えなければならない。

6 委員長の総括

本委員会では、様々な立場の委員から本事業の施策等に関する意見をいただいた。今年度からは、新規事業として、とちぎっ子学力向上応援団派遣事業と学力向上推進リーダー配置事業を実施している。委員からは、専門員による定期的な訪問や推進リーダーによる日常的な支援により、教員の授業改善に向けた意欲の向上につながっている。これらの事業について、一層の充実を求める意見が出された。

とちぎっ子学習状況調査の制度設計については、国の動向や他県の先進的な取組に関する情報を収集しながら、検討を続けていく必要がある。

今後とも、県教育委員会は、児童生徒一人一人の学力向上に向けて、市町教育委員会とより一層の連携を図るとともに、本事業に関わる施策の実効性を高めていってほしい。